

こんなこと  
やってるよ!

## 活動紹介

### 茅野ミヤマシロチョウの会

#### ～「深山の妖精」に魅せられて…～

「深山の妖精」？この妖精、白い衣に黒色のストライプ。そしてシンボルマークは一つの黄色の斑点。生息環境は亜高山帯の一角。今、その生息環境が荒廃し、このままでは「妖精とて生きていけない」と嘆いています。

「深山の妖精」の舞姿に魅せられて活動に参加している会員も少なくありません。私もその一人であり、出会いは常に新鮮で感動を覚えています。この「深山の妖精」とは、「ミヤマシロチョウ」であります。

ミヤマシロチョウは、中部山岳地帯に分布し、長野県・山梨県・群馬県・静岡県の天然記念物に指定されており、長野県では特別指定希少野生動植物であります。

最初に発見されたのが八ヶ岳であり、昭和の時代には多産地でしたが、バブル期の開発・化石燃料による経済社会の変動・森林管理の担い手不足などが影を落とし、現在、茅野市における生息地は2ヶ所で細々と生命を繋いでいます。そのために、今手を差し延べなければ…と考えて2008年3月に「茅野ミヤマシロチョウの会」を発足しました。まだ1年半ほどの会ですが、発足時の会員約40数名が現在では約90名です。会の目的は、

- ・ミヤマシロチョウの生息環境を整えることにより、生態系豊かな自然環境づくりを行ない、継続的に保護を行なっていく。
  - ・子ども達に観察会や学習会などをつうじて、「自然の大切さ」・「動植物の共存共生」から「生命の大切さ」を教え「こども育成」を図る。
  - ・これらの活動を県内外に発信する拠点とする。
- の3つです。

主な活動として、生息地における生態系調査やモニタリング、成虫発生期のパトロール（保護活動）、幼虫の食樹ヒロハヘビノボラズの剪定・下草刈・伐木作業（保全活動）、観察会・学習会・研修会などの開催、写真展の開催やパンフレット・会報誌の作成（広報活動）などを行っています。会の活動参加は、できる人が、できる時に…、強制力なしの自由参加。生息する環境をつくれば必ずミヤマシロチョウは復活すると信じて活動しています。

(会長 福田勝男)



連絡先

#### 茅野ミヤマシロチョウの会

事務局 茅野市八ヶ岳総合博物館内

〒391-0213 長野県茅野市豊平 6983

TEL (0266)73-0300

メール y.hakubutsukan@city.chino.lg.jp

こんな本みつけた!

## 読書案内

### 『足もとの自然から始めようー子どもを自然嫌いにしたくない親と教師のためにー』

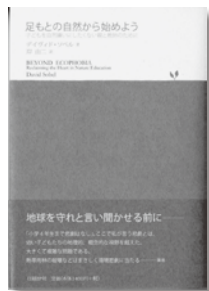
デイヴィッド・ソベル著, 岸 由二訳(日経BP社, 111ページ, 1400円+税, 2009年2月発行)

これから育っていく子どもたちは、さまざまな環境の危機が迫るなかで持続可能な社会を築いていくという難題に立ち向かわなければならない。そうした能力をもった大人を育てるために、さまざまな環境教育が行われている。しかし手に負えないと感じられるような大きな問題ばかりをあまり幼いうちから教え込まれると、苦痛からのがれるため、そこから心理的に距離をとるようになってしまうと著者は警鐘を鳴らす。

むしろ大切なのは、子どもの成長過程を尊重し、自然との本物のつきあい、大地との生きたむすびつきを身につけさせることだという。4歳からは7歳までは家と庭が世界の中心であり、そこでの生き物との共感を大切にしないとはならない。8歳から11歳までは探検できる自然のラン

ドスケープでの体験が重要であり、「秘密基地」づくりの経験も責任感や深い価値観を育むのに大きな役割を果たす。思春期に入る12歳から15歳になると、社会とむすびつくことが重要性を帯びようになり、地域活動の実践などが大きな意味をもつ。

この著者の主張は、米国での環境教育をめぐる現在の議論や政策づくりに大きな影響をあたえているという。流域保全活動に深くかかわる訳者が解説で述べているように、日本でも広く深く読まれてほしい一冊である。



(紹介者 須賀 文)